

講義名	ロジスティクス論			授業形態	
担当教員	李 志明	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

我々は日常生活において食品や衣類そして家電製品など様々なモノを消費している。そのため、企業はモノを生産し消費者に届けるが、売れる状態モノを届けなければならない。それに応える管理手法がロジスティクスであり、流通における重要な戦略である。講義を通してロジスティクスの理論や戦略そして課題を理解する。特にロジスティクス論では、企業の役員が知らないといけない戦略的な視点の内容を多く議論する。

到達目標

- (1)ロジスティクスの過程と役割が理解できる。
- (2)産業別に多様な企業のロジスティクス戦略が理解できる。
- (3)ロジスティクスにおけるデータ分析と戦略の意思決定ができる。

提出課題

立地戦略の演習問題

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業中に解説する

評価の基準

10%：課題（立地戦略の演習問題）
90%：期末テスト
授業貢献度によって加算点あり。

履修にあたっての注意・助言他

- 1. 基本的なマナーを厳守する。
- 2. 授業中の議論に積極的に参加してほしい。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

教員が制作したレジュメをキャンパスコースにアップロードする。各自、プリントアウトして、関連内容について予習しておく。また、授業内容のすべてがレジュメに記載されているわけではないので、レジュメを持って、授業に必ず出席すること。

授業計画

- 以下のように、15回の授業を計画する。そして、「大学設置基準第21条2」により、各授業回における計4時間の予習・復習が必要である。（ ）の内容を参考に、各自、予習と復習を実施する。
- 1.ロジスティクス論の理解
（物流との比較によるロジスティクスの定義と概念）
 - 2.4つのロジスティクスとビジネスロジスティクス
（ミリアルター、ヒューマンリソース、ソーシャル、ヒューマンリソースのロジスティクスの区分）
 - 3.物流管理の変遷：物流からSCM
（モノの管理の歴史、物流、ロジスティクス、SCMの定義と相違点）
 - 4.ロジスティクスにおける施設ネットワーク
（輸送の3要素、物流ネットワークの概念）
 - 5.ロジスティクス施設の立地戦略とその演習
（重心法の概念、トンキロの概念）
 - 6.企業のロジスティクス戦略の事例
（企業経営におけるロジスティクス戦略の意義、Design for Logisticsの概念）
 - 7.話題のロジスティクス
（最近のニュースなどから話題になっているロジスティクス、CLOの義務化）
 - 8.ロジスティクスにおける在庫管理
（在庫の概念、適正在庫量、無在庫論、JIT）
 - 9.生産在庫方式：プッシュ方式とプル方式
（運期戦略、投機戦略、在庫ポイント）
 - 10.SCMと3PL
（SCMの概念、ロジスティクスとの相違点、3PLの役割）
 - 11.ロジスティクスと環境
（企業活動と環境問題、SDGs、グリーンロジスティクス、リバーロジスティクス）
 - 12.ヒューマンリソースロジスティクス（災害時のロジスティクス）
（ヒューマンリソースロジスティクスの目的と課題）
 - 13.ヒューマンリソースロジスティクス（買物弱者のためのロジスティクス）
（買物弱者の問題、フードデザートの問題、ロジスティクスの使命）
 - 14.これからのロジスティクス
（DXの概念、新技術の種類）
 - 15.まとめとロジスティクスの再考察
（企業と社会におけるロジスティクスの使命、ロジスティクスの拡大）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

ロジスティクスは生産と流通において重要な役割を果たしている。ロジスティクスの基礎知識を身につけ、企業のロジスティクス戦略を理解すると、DPの「小売業界や流通に関する問題探索と課題提案ができる」よになる。
また、ロジスティクスの仕組みは流通の仕組みとしても説明できるため、DPの「流通の仕組みと役割が理解でき、これからの流通の姿を構想する」ことにも貢献できる。
さらに、ロジスティクスは小売業だけではなくインフラとして経済においても重要な役割を果たしている。特に、環境や災害などを考慮した効率的なロジスティクス戦略を行えることで、DPの「社会で活躍できる」ことにつながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回、授業中に授業内容に関して議論する。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
物流データの分析と物流政策立案の支援の経験があり、民間企業や政府の考え方や仕事のやり方などを伝え、現実感のある授業を提供する。

備考